

YAMAKADO NEWSLETTER

NO.77

2006/04/20

山門水源の森を次の
世代に引き継ぐ会

待ちこがれたブナ発芽



昨秋 11 月 26 日播種のブナの種子見事に発芽 (06/04/12)



4 月の新雪の南部湿原 (06/04/01)



雪中に咲くバイカオウレン (06/04/01)

「暖冬予想が豪雪」に、「桜の開花早まる」が「例年より遅れ気味」と今冬は気象庁泣かせとなった。山門水源の森でも 4 月に入って新雪を見た。もっとも

タムシバの咲く頃に降雪という年もあったのだが。しかし 4 月に入ってから春の暦は、バイカオウレン、ショウジョウバカマ、イワナシ、トクワカソウと花暦は進行している。こうした例年の推移とは別に、今春は昨秋播種したブナが発芽するという嬉しいニュースをお知らせできることである。近年希な生り年であったものの、不稔種子が多く播種はしたものの発芽はそんなに期待できないのではないか、と話しながら播いたにもかかわらず多くが発芽している。どのような土壌に播くかで迷いつつも、現地の土壌が最も適しているだろうと考え、その上に薄くピートモスを置いて播種した。それが良かったのか、育種箱が変形するほどの積雪が効いたのか理由は定かではないが。今後本葉が出るまでの日射・水分の管理が難しいだろうけれども現段階では大成功。



残雪

最後に残った南部湿原の残雪塊 (06/04/09)



イワナシの開花 (06/04/06)



群落が増大しているトクワカソウ (06/04/18)



トクワカソウ (06/04/18)

森のトクワカソウは、早春のエボックですが、健脚コース沿いの群落は今見ごろを迎えています。昨秋落枝や灌木の一部を伐採し群落が広がりやすいように整備しましたが、今冬の豪雪でまたまた落枝や倒木が見られます。が今は花を痛めるのでこのまま放置しています。群落の面積は年々拡大しており将来が楽しみです。ただ群落の中への立入りが心配です。トクワカソウより一足早く楽しませてくれるバイカオウレンの変わり種を伊藤会員が見つけてくれました。通常5弁の花なのですが、6弁と8弁がそれぞれ1本ずつです。「やまかど・森の楽舎」の水源地の左側です。今年は印を付けて採種を行いたいと考えています。



6弁のバイカオウレン (06/04/18)

「やまかど・森の楽舎」の事務所に右のような動物の足が届けられました。数日前の訪問者が拾われたとおもわれるものです。どうやら猛禽類の餌食になったテンの足です。猛禽類の生息は、この森の自然度の高さを示すものでもあり、ますます保全活動に力を注がねばと考えさせられます。



猛禽類に襲われたテン (06/04/17)

4月10日に予定していた「保全作業」は降雨のため12日まで順延して実施しました。10日に現地に行っていた会員の方もおられご迷惑をおかけいたしました。

当日は湿原までの木柵の補修と砂防作業を実施しました。布施会員がチェーンソーを持参していただき、能率的な作業が実施できました。ただ砂防作業箇所も多く、未だこれから実施しなければならない箇所も多く、会員みなさまのご協力をお願いいたします。



堰のようになった砂防作業箇所 (06/04/12)

西浅井町塩津にある「水の駅」で本格焼酎『山門水源の森』が売り出されました。森からのお帰りにお土産にどうぞ。



本格焼酎『山門水源の森』

